

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

彩の国東大宮メディカルセンターでは、当院の倫理・臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡ください。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意志であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。

研究課題名 (研究番号)	第1回日本放射線医療技術学術大会 呼吸停止法による違いが肺血栓塞栓症の造影 CT 検査に与える影響の 1例(No.58)
研究責任者 (所属)	和田 樹昂（放射線科）
研究実施期間	2024/5/15～2024/3/31
研究等の概要	【背景・目的】急性期肺血栓塞栓症（PTE）精査の造影 CT 検査時、最大吸気で撮影を行ったところ PA の造影効果が低く正確な診断が行えなかった。呼気で再撮影を行い PTE の診断ができた症例を報告する。 【方法】当院にて検査した患者の最大吸気画像と呼気画像の SVC、IVC、RA・RV、PA、の各血管・臓器計を計測し、変動率を求めた。 【結果】すべての計測箇所と呼気と比較し最大吸気で縮小を認めた。また、SVC、RtPA が最も変動率が高かった。 【考察】SVC、PA の静脈還流で顕著に変動しており、最大吸気による胸腔内圧の急激な変化が一時的な血管縮小に関与していると考えられた。 【結語】最大吸気後の息止めによって、計測血管すべてに呼気と比べ縮小が確認された。これらの血管の縮小によって、PTE を目的とした造影 CT 検査で PA の造影不良が生じていることが推測された。吸気の影響のない撮影法として呼気での撮影が望ましいと考え報告した。
個人情報の取扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

問い合わせ窓口

倫理・臨床研究審査委員会 臨床研究事務局
電話：048-665-6111(代表)